

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筈瀬778-3		
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれたこの地域で、理念に掲げている様に家庭的な雰囲気の中で、利用者様が自由に、楽しく、笑顔で生活され、一人でも多くの御家族や地域の方がいつでも気軽に訪問して頂けるようなホーム作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは行政機関や住宅地のほど近い場所に位置している。ホーム開設時の理念を基に、ケア理念を掲げ職員は利用者視点で実践している。利用者が「自由に楽しく笑顔で生活できること」を目標に、ゆったりとした穏やかな家庭的な雰囲気、その人らしさを引き出す支援に努めている。職員は介護計画に基づき支援する意義を周知し、日々のサービス支援を行っている。その中から本人らしさを表に出し、利用者の意欲向上に繋がっている。運営推進会議を重ねる毎に、地域とのつながりも年々広がり、夏祭りや老人会などの参加、また園児の訪問やボランティアの受け入れなど交流が盛んであり、まさに地域に開かれた地域密着型のホームとなっている。地域、家族、ホームとの連携のとれたグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勤務表にも掲げ、「自由に楽しく笑顔で」利用者様と共に生活できるように努めている。	「利用者が安心して生活できるよう地域に密着、開かれた運営を行います」という理念の基、自由に楽しく笑顔で利用者の喜びを見つけ、自信に繋げる介護実践に取り組んでいる。全ての利用者が笑顔になるようなレクリエーションを中心にケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の有識者の方々への声掛けを行い、行事に参加させて頂いたり、近所の公園に花見に行ったりしている。	日頃より地域とのふれあいがあり、地区イベントやじげもん市へ利用者と共に参加している。また、老人会のイベントへの招待を受けている。園児の訪問、ボランティア受け入れも多く、事業所の夏祭りは年を増す毎に地域住民の参加が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会長や民生委員の方等、運営推進委員となっただき少しずつ活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は町内の有識者の方が6名程参加され、施設の行事にも参加して頂いている。	2ヶ月毎、規程のメンバーにて開催しており、幅広い意見交換を行っている。欠席者へは議事録を送付し情報を共有している。体調管理やホームの安全面等のアドバイスを受れたり、便り用の写真についての提案を取り入れるなど意見を活かしサービスに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者の方も運営推進会議に参加されている。生活保護担当者とも連絡を取りながら業務に活かしている。	長寿社会課や包括支援センターの担当者とは連絡を取っており、利用者それぞれの事情に合わせ必要な手続きにおいて各課と連携している。介護や研修など様々な情報提供があり研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が普段より身体拘束をしないケアを心掛けている。施設の玄関先がパン屋の駐車場でもあり帰宅願望や徘徊等で危険防止の為に必要時は施錠することもあるが、通常は施錠せず自由に開閉できるようにしている。	身体拘束をしないケアを全職員取り組んでいる。申し送りやミーティングで日常のケアを振り返り、利用者の抑圧感を招いていないか検討している。ベッド柵やセンサーの使用も無い。玄関の鍵は通常かけておらず、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや新聞記事、研修会等で見聞きしたり学んだことを意見交換を行い、防止に努めている。		

グループホームあじさい(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を設置すると共にミーティングや朝の申し送りの際等に話しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	町外や県外の方が多いが、電話や文書の送付等を丁寧に行い、行き違いがないように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議に出席の際に意見や要望を頂く事があり、ミーティングの際に伝えている。	家族の訪問時や電話で日頃から話しやすい信頼関係を築いている。汲み上げた要望は職員と共に検討し、運営に反映させている。利用者の様子が一層わかるように写真と手紙を送付している。ただし、意見箱は設置されているが、運営規定と契約書に外部相談苦情窓口の記載がない。	利用者や家族の心情に配慮し、運営規定等に外部窓口を記載されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝の申し送りをはじめ、業務の中でも意見や要望を聴取し、できることから実施している。	職員は管理者に意見や要望を言い易く、管理者は備品の購入や勤務シフトの希望など聞き、反映させている。代表者には2ヶ月毎の全体会議で意見や要望を言う機会がある。今年度はおやつ作りのホットプレートやたこ焼き器の購入し、楽しいイベントを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長作成の勤務表により勤務状況を把握してもらっている。その中で職員の要望も伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加促し、資格取得への促しを行っており、特に外部研修への参加は積極的に実施できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域包括ケア会議などに参加し、交流や情報交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談において心身及びこれまでの生活状況を把握し、その後職員と話し合い、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族から伺った要望などに応えられるように努めると共に、入所後もいつでも意見や要望を頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の話の内容によって他のサービス利用が適切と判断した場合は、他のサービスが利用できるよう援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であることを常に念頭に置き、一緒に学び支えながら家庭的な雰囲気の中で日常生活が送れるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一度、写真入りのホーム便りを送付して生活状況を伝えとると共に、面会時には意見交換を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問して頂けるような雰囲気作りに努め交流して頂いている。年間の計画はもとより、希望する外出等にも応えられるようにしている。	利用者の生活歴を十分把握し、地域老人会の参加や自宅近くのドライブ、墓参り等、なじみの場所へ行くことでこれまでの関係が途切れないよう支援している。また家族や友人が気楽に訪問してもらえるようなホームの雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活状況において職員全員が気配りを行い、利用者同士はもちろん、職員とも信頼関係が築けるようコミュニケーションをとるようにしている。		

グループホームあじさい(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時等は特に、電話連絡や病院への様子伺い等必要に応じて支援行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で色々な問題等を把握し、その都度職員間で話し合い支援に努めている。	利用者視点で、一人ひとりと会話から意向を把握している。発語困難な利用者とは筆談と仕草や表情から、思いに寄り添っている。得た情報は個人記録に記入し、職員間で共有している。日中の過ごし方も利用者の意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味や特技等を把握した上で、一人ひとりと対話を大切にしながら支援を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での気付きやミーティング、申し送りの他、介護記録や日誌等で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの在り方を職員間で話し合い介護計画作成に活かしている。必要時は家族や主治医の意見も面談や電話連絡等で聴取して活かせるようにしている。	3ヶ月毎にモニタリングを行っており、入退院後等状況にあわせ作り直している。利用者の思いは日常の会話から聞き、家族の要望は訪問時等に聞いて、計画見直し時に反映し、計画書に同意を得ている。カンファレンスを通じ職員は、介護計画の意義を把握しているが、ケア目標の進行状況がわかる記録が無い。	サービス支援の実践状況が、介護目標と連動できていることが確認できるよう記録の取り方を均等することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌や介護記録に担当者が個別に記録を残している。朝の申し送りで報告を行い、問題発生時は話し合い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々意見や要望を聴取し、できる限り希望に添えるように努力している。		

グループホームあじさい(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の巡回図書の利用や地域ボランティアの紙芝居や歌、踊り等で交流している。また、地域の文化祭(演芸大会)の見学にも出向いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりのかかりつけ医を明確にしており、定期受診はもとより、体調不良時には連絡、受診、往診ができるようにしている。	かかりつけ医の受診は、職員の通院介助により行われている。受診内容は家族へ伝え、また個別記録に記載し職員間で共有している。往診も行われている。専門科受診は家族にお願いしている。職員は夜間や緊急時、看護師や各医療機関との連絡の手順を周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や異常を発見した時には、必ず報告、相談を行い、必要時には受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時にはご家族や入院医療機関と連絡を取り合い、退院後も安心して生活いただけるよう、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の看取り看護について説明を行い、同意書に署名を頂いている。終末期や状態変化があった場合は家族や医療機関との話し合いのもと対応している。	直近の事例はないが看取りに取り組む指針があり、職員は周知している。利用開始時に看取り介護について説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じ、医師、家族と共に話し合いの場を設け、随時意思確認をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置し、ミーティングの際等に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、関連している病院、施設と共に防災訓練を行っている。	年2回消防署立会の避難訓練を実施しており、内1回は夜間想定での訓練である。また、通報訓練、消火訓練も行っている。消防署より2階利用者の誘導方法のアドバイスを受けている。地域連携もある。併設施設との連携も確認しており、自然災害時の対応も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを常に忘れないようにして接するように努めている。居室に入室の際は必ずノックし、声掛けをして入るようにしている。	利用者のプライドを傷つけないような言葉遣いを職員は心がけている。失禁時は居室へ誘導し、羞恥心に配慮している。個人記録の保管は事務所でを行い、写真掲載の同意及び撮影にも気を配っている。但し、日中未使用時のポータブルトイレ及び尿器の取り扱いに配慮が必要である。	ホームは地域に開かれており、家族を含め、外部からの訪問が多い。日中未使用時のポータブルトイレ及び尿器の取り扱いに検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制することのないように常に希望を聞きながら、自己決定ができるように声掛け、促しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天気や利用者様の健康状態に配慮し、希望を聞きながら支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度が進み、声掛け、促しでやっと身だしなみを整えることが多くなってきている状況にあるが、外出の際には一緒に普段と違った服を選んだり、洋服が似合っている時にはほめたりしておしゃれが楽しめるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を行ったり、庭で栽培した季節の野菜を食事に取り入れたりしている。食事の際には季節の食材や、調理の仕方、食べ物の好み等日常会話を楽しみながら食事ができるよう配慮している。体調に合わせて配下膳、テーブル拭き等一緒に行うようにしている。	利用者の嗜好を法人内栄養士に伝え、献立を作成している。事業所では梅干し作りや芋の収穫など季節感を取り入れている。行事に合わせた献立や2ヶ月に1回外食ドライブもある。嚥下にあわせ、色彩に配慮した盛りつけをし、利用者は職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については声掛け促しを行いながら、毎食食事摂取量を記録している。水分補給については、自己管理が可能な方にはペットボトルで随時お茶を渡すようにしており、自己管理が難しい方には声掛け促しにてその都度対応行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自身で可能な方には声掛け促しにて義歯洗浄の指導、誘導を行い、そのほかの方には一部介助で行うようにしている。		

グループホームあじさい(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄可能な方には、早めに声掛け誘導を行い、失敗の回数が減るように工夫している。おむつ使用の方でも排泄後がわかる方には教えて頂くようにしてすぐに交換するようにしている。	トイレでの座位排泄支援を行っている。排泄パターンを把握し、声かけトイレ誘導を行うことで、失禁が軽減している。また、職員は利用者にあったパッド類やオムツ使用の軽減に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や簡単な運動を取り入れたレクリエーションの参加促しを行っている。ある程度歩行ができる方には廊下を歩いてもらっている。また、水分補給時には牛乳や飲むヨーグルト等の乳製品を積極的に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴開始の時間や順番はその日の状況に応じ、希望や声掛け誘導にて行うようにしている。ほとんどが個別対応にて入浴して頂いているが、仲の良い方同士と一緒に入浴されることもある。	日々入浴準備をしており、入浴の順番は利用者の状況で検討している。車椅子利用者は2人介助で湯船に浸かれるように支援している。拒否時は職員を替えたり時間をずらすなどしているが、本人の意思を尊重し、強制はしない。同性介助も対応している。菖蒲や薔薇を浮かべ利用者が入浴を楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室においてはいつでも自由に休んだり安らげるように配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明をファイルしつつでも確認ができるようにしている。処方変更があった時には必ず申し送りを行い、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際の配下膳や掃除機かけや拭き掃除等、強制することなく、その日の体調や気分に応じて参加して頂いている。リビングでのテレビ視聴や朝の新聞は自由に見ることができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時は散歩や買い物に職員が同行するようにしている。隣接のパン屋さんには時々出かけられている。	気候や体調に配慮しながら、日常的にホーム周辺の散歩を行っている。買い物や気分転換にドライブを個別に行っている。季節を感じてもらおうと花見や商業施設等遠出を計画し、車椅子利用者等全員で外出を楽しんでいる。	

グループホームあじさい(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方については外出時に好みの物を買って物販されている。時には職員に買い物をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話できるようにしており、希望があれば介助を行っている。しかし近頃は手紙を書く方はない状況にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花や植物を活着するようにして季節感を味わっていただけるようにしている。また、ホワイトボードや壁を活かして貼り絵や折り紙等利用者様の作品を掲示している。	リビングの窓からは緑豊かな景色が望め、明るく清潔感のある空間である。壁には季節の花や木を取り入れ、四季を感じることができる。換気も適宜行われ臭気もない。職員は利用者が好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいてはそれぞれに落ち着ける場所があり、個々に談話したりテレビ視聴したりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅より馴染みの品を持ってこられて配置したり、家族の写真を飾っている方もいる。	これまで愛用していた鏡台やタンス等を持ち込み、ベッドや家具の位置も利用者の好みに応じ、ベッドの代わりに畳を敷き利用している居室もある。掃除は職員が定期的に行っており、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ転倒事故が起こらないよう配慮すると共に、既存の手すりがない部分に現在設置を検討中である。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筍瀬 778-3		
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれたこの地域で、理念に掲げている様に、家庭的な雰囲気の中で、利用者が自由に、楽しく、笑顔で生活され、一人でも多くの御家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなホーム作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由に楽しく笑顔で」を掲げ、朝の申し送り、ミーティング時に、言葉に出して確認し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家との距離が離れているので、行事等に参加して頂き、利用者に関わりを持っていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徐々にではあるが、地域の行事に参加し、交流を行い理解を深めている。地区長、民政委員の方などにも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いた委員の方々や、ご家族の意見などを伺い、介護や、あじさい便りの作成内容などに活かしている。利用者の現状、サービスなどは毎回詳しく、報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に運営推進会議を中心に、連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について、理解しており拘束をしないように、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで説明している。利用者の身体観察を含め、常に職員の行動、言動などに注意を払っている。		

グループホームあじさい(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例で入居者が、後見制度を利用していたので、学ぶ機会があり、ミーティングなどで説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、説明をし納得して頂いている。又、不安な事、疑問点は、いつでも尋ねて頂くように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また面会時に、コミュニケーションをとり、二か月に一度、家族へ手紙を送っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話、申し送り、ミーティング時、職員の意見を聞き、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や、休みの希望などを聞き、働きやすい体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が来た時には、できるだけ参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所を訪問したり、研修会などに参加し、意見の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を作り、思いや要望などに耳を傾け、安心できるような言葉をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の様々な声に耳を傾けている。何かあれば、いつでも遠慮せず、連絡を下さるよう、声をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を良く聞いて、理解し、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の要望を聞きながら、不安を取り除き、「家族的な雰囲気」を意識しながら、取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員が共に話し合いの場を持ち、家族と共に支えていく旨を伝え、協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方が、面会に来られた時、継続的に来ていただけるよう、協力をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がトラブルを起こさない様に、テーブルの位置関係を配慮し、言葉がでにくい方は、スタッフが介入し、意思疎通が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中で退所される方は、殆んどないが、家族の方からの相談があった場合は、できるだけ要望に添えるよう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、又は居室を訪問したりして、本人の声を聞き、把握に努めている。困難な場合は、生活歴や、家族の思いも含めて本人の立場で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人、病院、施設などからの情報を収集し、スタッフ全員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックや表情、行動、精神状態などを観察し、勤務交代時に細かく引き継ぎ、現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状と本人の希望、家族の意向などをふまえて、意見を出し合い、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに、気づきや変化時の様子、対応などを記入している。職員全員が共有し実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ要望に応えられるように、職員は柔軟な態度に努めている。		

グループホームあじさい(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サイクロンロードで花を見学しながら、散歩をしたり、ボランティアや保育園の協力を得て、楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、定期、急変時に受診し、連携を密にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態を看護師に伝え、相談し受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを提出し、特に入院先の看護師、ケアワーカーとの情報交換を密にし、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を把握し、早めに家族との話し合いを行い、説明している。職員全員が共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	話し合いはしているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防火訓練、避難訓練を行い、移動方法などを、身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼にならないような言葉遣いや、態度、対応をするよう心がけながら、支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をしていただく時は、わかりやすい様に短い言葉で伝え、利用者のペースに合わせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の声を聞き、個々のペースで過ごしていただいている。レクリエーション前には、利用者に説明し、同意を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望は少ないが、季節や気候に応じて、同じものにならないように配慮し、清潔な衣服着用を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いて、可能であれば、代替食品を提供している。できる方には、テーブル拭きや箸の準備をお願いし、力をいかにせるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、お茶、牛乳、ジュースなど好みに応じて提供し、水分摂取量が少ない時は細めな飲水を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただいている。介助が必要な方は、その方にあった歯ブラシを、使用している。		

グループホームあじさい(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間の個人のトイレの誘導は、時間帯を決めて行っている。又、訴えることができる方には、トイレに座っていただき、排泄誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、健康チェック表を確認し、個々の水分補給や、睡眠、緩下剤の使用など、便秘に気を付けている。腹部マッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて、発汗や汚染などの時のシャワーや、週に2回の入浴を、ゆっくりしていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ規則正しい生活習慣の中で、昼寝や就寝時間、疲れた時など、いつでも休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認と日付や、名前の確認をしている。薬の手帳や説明書を明記し、いつでも確認できるよう、見やすい所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、室内掃除の手伝いや配膳、下膳、洗濯たたみなど、できる範囲でしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、いつでも外出支援を行っている。		

グループホームあじさい(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭能力に応じて、自分の小遣いで、おやつやジュースなどが買える。月の小遣いの中で家族、本人の納得のいく使い方をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば、状況に応じて、ご家族や友人の方などに連絡ができるようにしている。個人の能力で、手紙を書ける方に関しては、便箋、封筒を用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、季節の花を飾ったり、リビング、各居室には、利用者が自分で作った折り紙や貼り絵など飾り、室温湿度、気になる臭いの消臭などに気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の席替え、トラブルのないよう配慮している。又、畳にも座っていただけるよう、整理整頓に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、飾り物を置いて、居心地良く過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングに、障害物を置かないように、整理整頓に努め、生活場所が分かりやすいように、絵札や文字で表札を表示している。		